

令和7年度学校教育アンケートの結果について

新居浜市立船木小学校
校長 明星 孝典

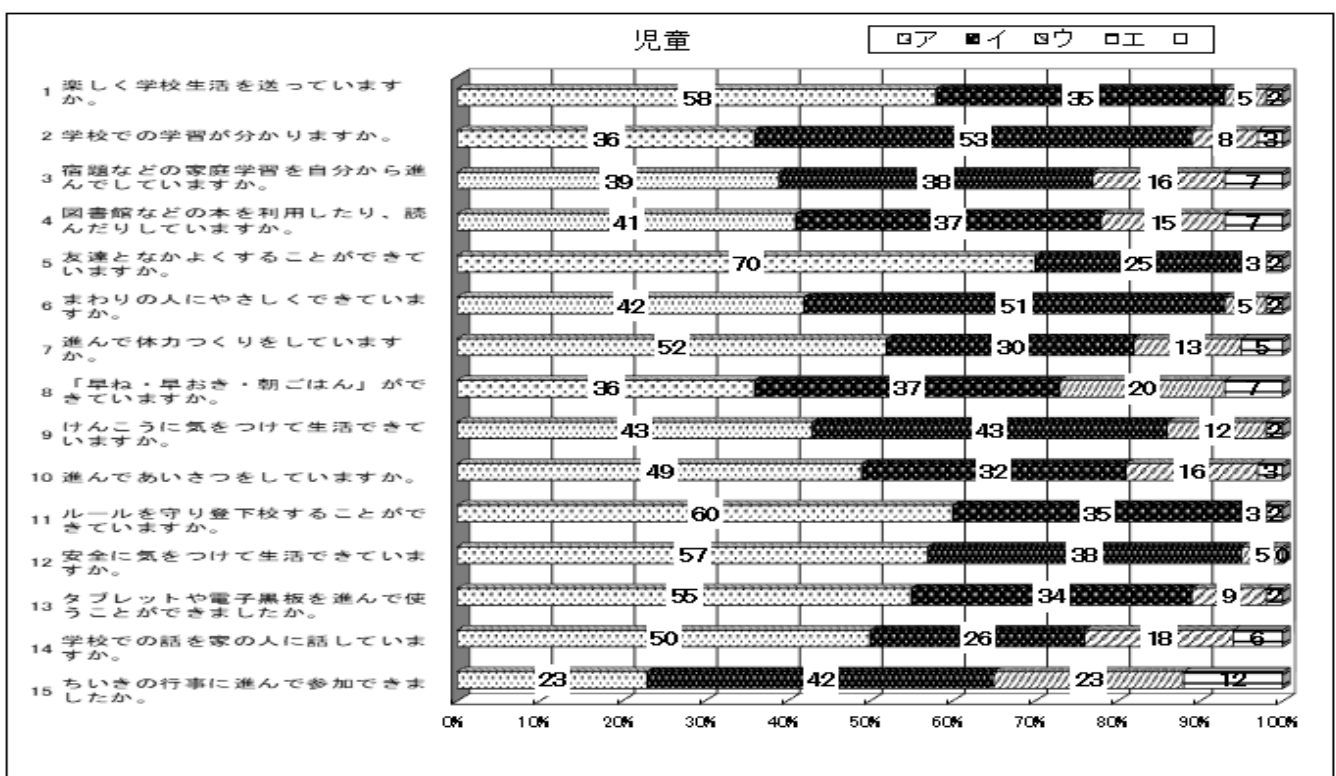
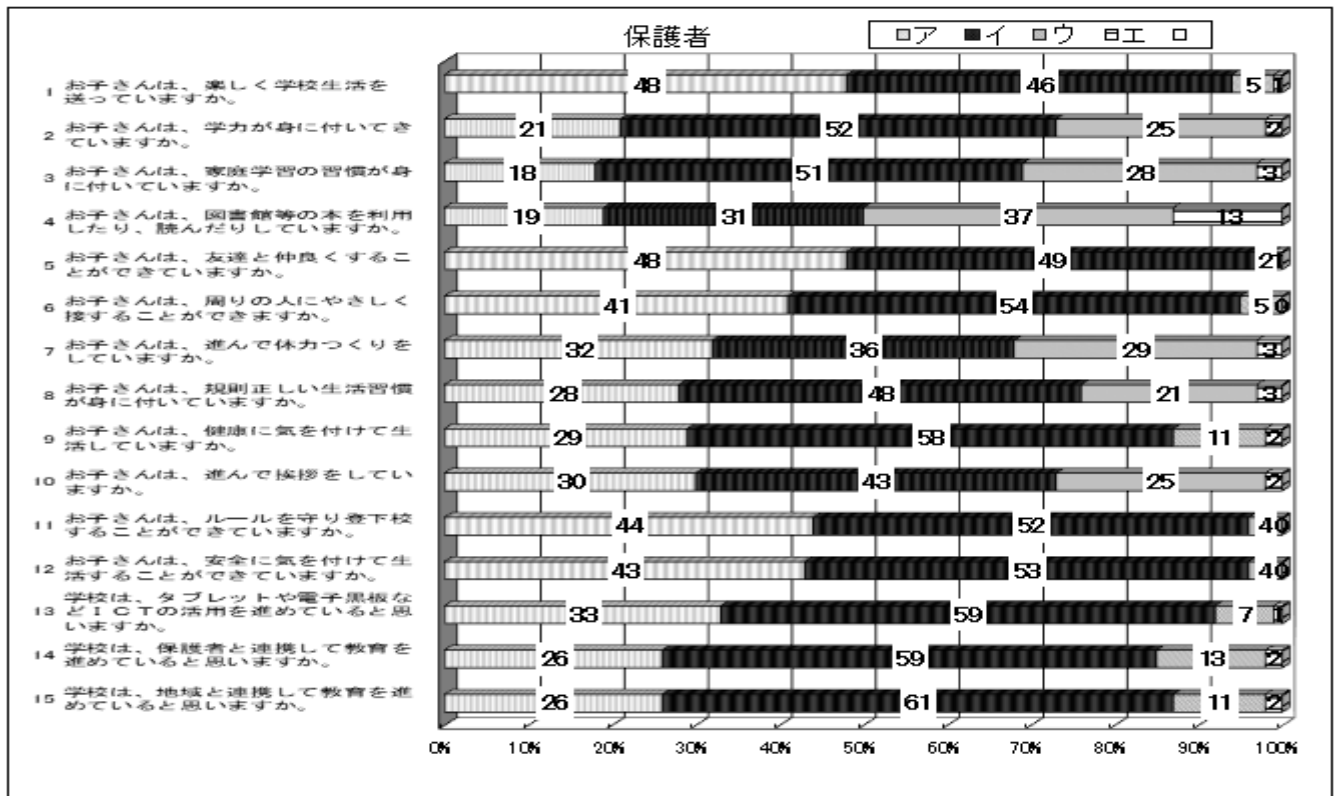
本年度の学校評価の結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

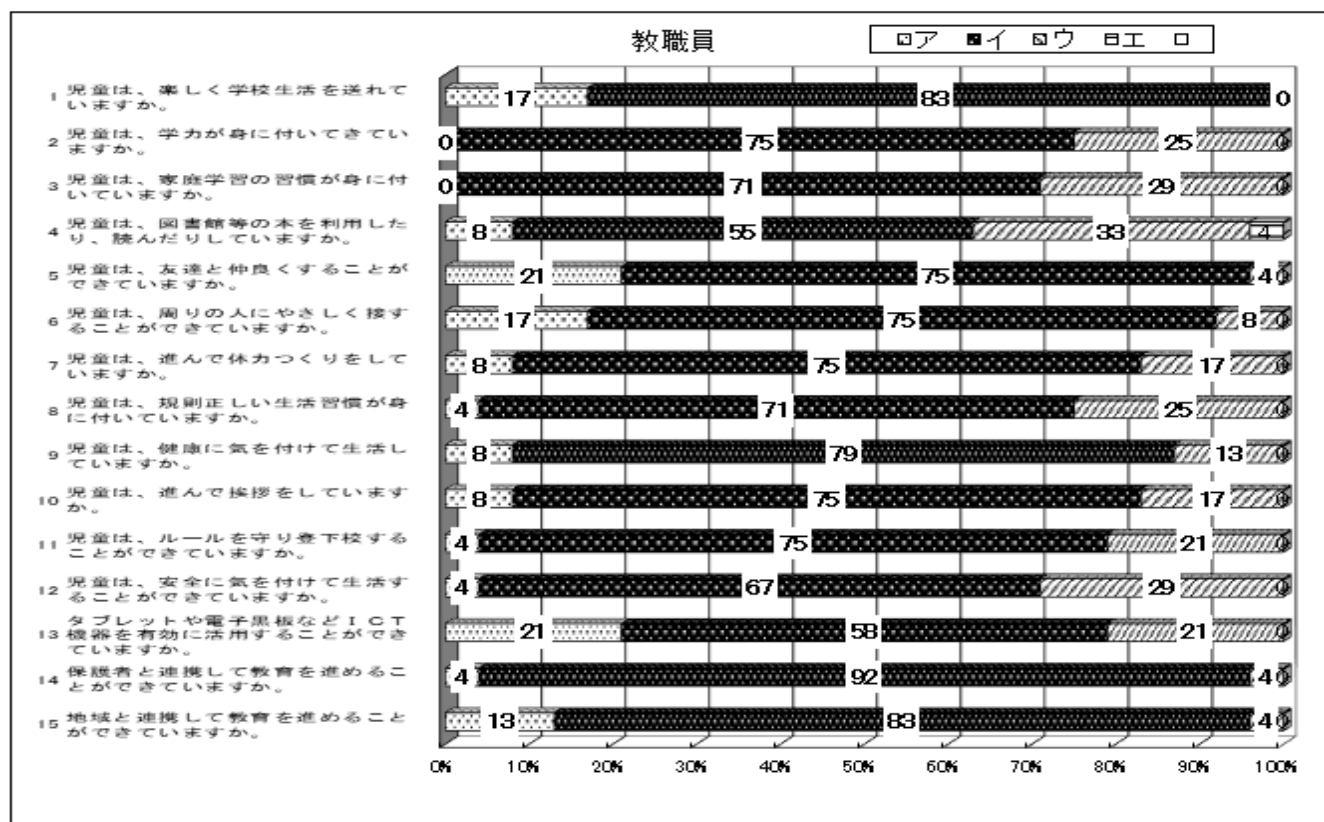
保護者の皆様には、ご多用の中アンケートにご協力いただき、心より感謝申し上げます。

皆様からいただいた大切なご意見を今後の学校づくりに生かし、子どもたちが安心して生き生きと学べる環境づくりに、教職員一同努めてまいります。

今後とも本校の教育活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

1 アンケート結果（ア：よくできている イ：できている ウ：あまりできていない エ：できていない）





アンケート結果の比較

※ 評価は5段階評価（5が高評価）で、下のように基準を設けました。

- 5・・・肯定的意見が80%以上、かつ「よくできている」が50%以上
- 4・・・肯定的意見が80%以上
- 3・・・肯定的意見が60%以上80%未満
- 2・・・肯定的意見が40%以上60%未満
- 1・・・肯定的意見が40%未満

番号	評価指標	教職員自己評価	保護者アンケート	児童アンケート
1	学校生活について	4	4	5
2	学力の定着	3	3	4
3	家庭学習の定着	4	3	3
4	図書館の利用	3	2	3
5	友達との関わり	4	4	5
6	優しい心づくり	4	4	4
7	体力づくり	4	3	5
8	規則正しい生活習慣	3	3	3
9	健康的な生活態度	4	4	4
10	挨拶をする態度	4	3	4
11	安全な登下校	3	4	5
12	安全に気を付ける態度	3	4	5
13	ICT機器の活用	3	4	5
14	保護者との連携(OS)	4	4	5
15	地域との連携(OS)	4	4	3

2 保護者アンケート（記述式）より（抜粋したもの）

- 学年を越えた交流が盛んで、アットホームで伸び伸びとした環境がある。
- 地域密着型で、近隣の方々に見守られながら登下校や生活ができています。
- 挨拶がよくできるようになった。下級生や友達に優しく接することができるようになった。
- 自分の意見を言葉で表現できるようになった、責任感や積極性がついてきた。
- 家庭学習が習慣化し、自発的に行動できるようになった。
- 目標を持って取り組む、優先順位を考えるとといった自己管理能力が育っている。
- 先生が親身で、愛情を持って接してくれている。
- 体育館への空調設置を整えてほしい。
- 子どもが外で遊びたくなるような遊具を増やしてほしい。
- 授業に対する姿勢や言葉遣いなど、基本的なことが今までに比べてできていない。
- 先生と保護者、あるいは先生と児童がよりコミュニケーションを取れる場や雰囲気づくりを行ってほしい。
- タブレットの強制的な持ち帰りや、管理責任を保護者に求める学校側の姿勢を見直してほしい。家庭の教育方針が崩れる、依存症への懸念がある。
- 近隣校のように学力テストを実施してほしい。
- 運動会や音楽会が好きで得意な子ばかりではないので、参加の仕方を見直してほしい。
- 担任によって連絡（時間割の共有など）や対応に差があるため、どのクラスでも同じフォローが受けられるようにしてほしい。
- 先生のストレスは子どもにとってもよくないので、働き方改革等を進めてほしい。
- 以前実施していたような集団下校があってもよいのではないか。
- 参観日の保護者の廊下での私語は、恥ずかしい。

3 考察

- ・「楽しく学校生活を送れているか」という問いに対し、児童の 93%（ア：58%、イ：35%）が肯定的な回答である。教職員も 100%（ア：17%、イ：83%）が肯定的であり、多くの児童にとって学校が安心できる場所になっている。しかし、7%（ウ：5%、エ：2%）の児童は否定的な回答となっている。
- ・学力については、児童の 89%（ア：36%、イ：53%）が肯定的回答であるのに対し、保護者は 73%（ア 21%：イ 52%）教職員 75%（イ 75%）にとどまっている。家庭学習の習慣についても、保護者、教職員ともに約 30%が十分に身に付いていないと回答している。
- ・「友達と仲良くすること」に児童の 70%が「よくできている（ア）」と回答しており、全項目中で最も高い。保護者の評価も 97%（ア：48%、イ：49%）と極めて高く、学校での人間関係が良好であることが伺える。
- ・タブレットや電子黒板の活用について児童の 89%（ア：55%、イ：34%）、保護者の 92%（ア 33%：イ 59%）が肯定的に捉えている。
- ・図書館等の本の利用については、三者共通で「ウ（あまりできていない）」や「エ（できていない）」の割合が他項目より高い。児童の 22%（ウ：15%、エ：7%）、保護者の 50%（ウ：37%、エ：13%）が否定的な回答である。教職員も 18%が「あまりできていない（ウ）」としており、家庭・学校の両面で読書に親しむ環境づくりが必要である。
- ・挨拶については、児童の 81%ができていると回答しているが、保護者の 27%は十分でないと感じている。

- ・規則正しい生活習慣については、保護者、児童、教職員ともに約 25%が否定的な回答をしており、「早寝・早起き・朝ごはん」などの基本的な生活習慣に課題が見られる。
- ・安全については、児童・保護者は肯定的な回答が 90%以上となっているが、教職員は 70 台になっている。
- ・地域との連携について、児童の「地域の行事に進んで参加できたか」という項目は、全項目で最も肯定率が低い(ア:23%)。保護者、教職員が感じる連携の強さと児童の実感には乖離が見られる。

4 学校関係者評価（抜粋したもの）

- これからの時代を生きていく子どもたちにとって、ネット（WEB）は必要なものなので、学校教育で進めていることを理解してもらおうとよい。
- タブレット端末の取り扱いについて
→学校で使用しているタブレット端末は、学習に使うものという前提であり、持ち帰りも同様に行っている。
- 絆アンケートについては、言葉では言えないことも文字でなら伝えられる手段としてアンケートがある。絆アンケートは大事なものだからちゃんと書くように、学校でも家庭でも伝えると良い。
- 社会に出たらしんどいし、長いことも視野に置いて指導していく必要がある。社会ではルールがあり、ルールの中できちんとやっていけるようにしていかなければならない。子どもたちのためになることを一番に考え、今の子どもたちをしっかりと育ててほしい。
- 学校教育+社会教育（地域）で、船木の子どもたちを育てていく。
- 先日のCS連絡協議会で、イベント実行委員会を中学校で立ち上げて活動しているという発表があった。自分たちで考え動いていくということが大切なので、船木校区でもこのようなことをやっていけたらと思う。

5 改善策

- 児童や保護者に寄り添い、温かい人間関係を構築するとともに、全ての児童が安心して笑顔で過ごすことができる学校づくりを進める。
- 児童が「分かった！楽しい！」と思える授業をさらに工夫するとともに、基礎的な学力の定着を目指します。また、家庭と連携し、温かい声掛けや見守り、学習に集中できる環境づくりに努めることで、家庭学習の習慣化を進めていく。
- 朝の読書タイムの充実や、図書室の環境整備を進めたり、家庭での読書の呼び掛けを行ったりすることで、読書に親しむ環境づくりに努める。
- 家庭と連携し、自分の生活を振り返る機会を設け、基本的な生活習慣の改善（早寝・早起き・朝ごはん）に努める。
- 登下校を含め、児童が周りの状況をよく見て行動し、事故やけがのない生活を送れるよう、安全指導の充実に努める。
- 学校内での地域活動の見える化を図ったり、地域と連携しながら工夫して体験活動を進めたりすることで、地域活動などに積極的に参加する児童を育てていく。